

## ご あ い さ つ

三好教育研究所 所長 川原 良正

平成24年度は、教育に投げかけられた大きな問題がありました。教育のあり方が、今一度厳しく問い直される年でもありました。ひとつは滋賀県大津市でのいじめ問題であり、もうひとつは大阪市の高校における体罰の問題です。いじめについても体罰についても、これまでも人権問題として取り組まれ、絶対に許されない教育問題でした。こうしたことが、今また問題提起されるということは、教育職に身をおくものとしては、忸怩たる思いがあります。子どもたちの目線にたち、子どもたちの悩みや苦しみに心を傾け、子どもたちの成長や幸せを願うという、当たり前のことが当たり前になされる「教育」が問い直されているのです。今一度、先生方には学校や学級の有り様をふり返り、子ども達の瞳が輝いているか、輝いていないなら課題は何であり、そのための方策は何かを見つめ直していただきたいと思います。三好郡市の未来を担う子どもたちの育成は、「不断の教育の問い直し」にかかっていると云っても過言ではありません。

三好教育研究所では、研究主題に「未来を切り拓き、心豊かにたくましく生きる子どもの育成」を掲げ、本年度も各種事業に取り組んできました。特に8月23日には池田総合体育館を会場に「第61回三好教育研究発表会」を開催いたしました。研究発表では東祖谷小学校、池田中学校、三好教育研究所から2年間の取り組みをふまえた実のある研究発表をしていただきました。また講演会では「僕は運命を信じない」と題して元プロボクサーの坂本博之さんによる講演を拝聴しました。家庭や地域との連携、人や社会や自然とのつながり、また変化に対応する情報モラルの育成など、今日的な課題をとらえた真摯な取り組みの一端を発表していただいたものと思います。

また、ここにお届けする「第93号 研究所報」では池田幼稚園の元木真砂代さん、三庄小学校の近藤博美さん、芝生小学校の園尾淑子さん、白地小学校の神谷美樹さん、榎生小学校の岩崎真人さん、三好中学校の片山徹さん、三野中学校の小出真理子さんに執筆の労をとっていただきました。それぞれの研究主題にもとづいた研究は、三好教育の実践に、厚みをもたらしてくれました。紙面を借りて、篤くお礼を申しあげます。各園や各学校での今後の取り組みの参考にしていただけたら幸いです。

教育は「命の芽」を育てるものです。学校は子どもたちが「生きる道」を学ぶ場です。どうか、先生方の目の前の子どもたちが、瞳を輝かせ、楽しい、充実した学校生活を送れますように、なお一層のご尽力をお願いいたします。

最後になりましたが、三好教育研究所によせていただきました、関係機関ならびに関係各位のご支援に感謝申しあげますとともに、三好郡市の子どもたちが夢と希望を持ち、心豊かに成長できますよう、引き続きご支援ご協力をお願いし、ごあいさつとさせていただきます。

# 《目次》

ごあいさつ

三好教育研究所 所長 川原 良正

## -----委嘱研究員研究-----

P1~3

- 言葉による伝え合いが成り立つために  
～絵本の読み語りをとおして～

池田幼稚園 教諭 元木 真砂代

P4~7

- 一人一人の豊かな未来につながる教育  
～共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育の視点から～

三庄小学校 教諭 近藤 博美

P8~10

- 震災に学ぶ  
～実践を通して防災意識を高めよう～

芝生小学校 教諭 園尾 淑子

P11~15

- 価値判断・意思決定する場面で活用できる知識の習得をめざす教師の手だて  
～「わたしたちの願いを実現させる市の政治の働きを調べよう」の学習を通して～

白地小学校 教諭 神谷 美樹

P16~20

- ふるさとを愛し、いきいきと学び合う心豊かな子どもの育成  
～人との豊かなつながりを通して、認め合い、  
支え合い、ともに生きる教育活動の創造～

欒生小学校 教諭 岩崎 真人

P21~23

- 地域とつながる食に関する指導

三野中学校 主事 小出 真理子

P24~26

- 社会科における言語活動の充実  
～社会的事象の意味、意義を解釈する学習や、

事象の特色や事象間の関連を説明する学習における指導の工夫～

三好中学校 教諭 片山 徹

P27

- 歴代委嘱研究員一覧

# 研究主題

言葉による伝え合いが成り立つために  
～絵本の読み語りをとおして～

池田幼稚園 教諭 元木 真砂代

## 1 はじめに

本年度池田幼稚園では、絵本に親しみ感性豊かな子どもに育ててほしいという願いのもと、地域のコスモス会の方による絵本の読み語りを行っている。DSなどのコンピューターゲームづけになりがちな子ども達にとっては、この読み語りは、ワクワクドキドキ感があり毎月とても楽しみにしている行事である。

毎日の園生活においても、家庭とは違った絵本との出会いがある。この絵本に、より多く出会えるということによって、その後の子どもの言葉の引き出しの数が変わってくるのだ。言葉の引き出しを沢山もっている子はそのうち、その沢山の引き出しの中から言葉を選んで話すことができるようになる。そうして、友達とのコミュニケーションが深まり、楽しい時も辛い時も話をする事ができれば、そのことが豊かな人生へと繋がる一つの手助けとなっていくのではないか。

人と話をしなくても生活ができる今の社会において、パソコンやスマートフォンなどの画面からは得られない絵本の温かさを、子ども達には伝えなければならないと感じている。

## 2 研究の目的

本園は、4歳児19名、5歳児18名の2クラスで、37名が在籍している。

私の担任している4歳児は、他の幼稚園や保育所などの集団での生活経験がない幼児が半数ほどいる。入園当初は、母親と離れられないで泣き出す子ども、それを見て不安になって泣き出す子どもと、登園時は大半の子どもが泣いていた。

給食時には「こんなのいらん」「たべん」「もういらん」の繰り返しで、一人ずつへの対応が必要だった。午後保育の利用も少なく、家庭で沢山の愛情を受け育っているため、園では、教師との1対1の関わりによって安心感をもたせ、少しずつ集団生活に結び付けていった。

クラスが安定していく一方で、園生活に慣れてきても母親と離れがたい子どもや身辺自立がなかなかできない子ども、友達の顔が近づくと無意識に友達を叩いてしまう子どもなどが多いことに気付いた。

そこで食事や衣服の着脱等々基本的な生活習慣を身につけ、特に、話し言葉が完成し、想像力が豊かになるといわれている4歳児に、自分の思いを言葉で表現できる力を身につけ、友達と一緒に遊ぶことが楽しいと思える子どもに育ててほしいと願って、この主題を設定した。

### 3 研究の方法

絵本をとおして、様々な遊びや活動を経験し、友達に対する優しさを養い、友達と遊ぶことの楽しさを感じ、豊かな感性や表現力を身につけるために、教師がどうかかわるか、またその環境構成について研究し実践していく。

### 4 実践事例

(1) 「はじめまして」(新沢としひこ作 大和田美鈴絵)の絵本より(4月下旬)

入園後、初めての絵本として「はじめまして」を歌いながら読んでみた。読み終わって教師が「はじめましてのごあいさつ もとしまさよともうします お肉を食べるのが大好きです どうぞこれからよろしくねえ」と自己アピールをすると「お肉だって、おもしろい」とAが言う。「誰か自分のことを歌ってみる？」と教師が言うとBが立つ。「どうぞ」と声をかけると「はじめましてのごあいさつ Bともうします バナナを食べるのが大好きです どうぞこれからよろしくね」と歌った。「Bちゃんはバナナが好きなんだ バナナっておいしいよね ありがとう」と言って教師が拍手をすると子ども達も拍手をする。

<省 察>

教師が一人一人のアピールを受け止め、アピールできたことを心から褒めたり、教えてくれたことに感謝したりすることを繰り返すうちに、自己アピールができる子どもが増えてきた。また、「今日はマリオ好きって言う」と目的をもって登園するので、母親からすぐ離れられる子どもが増えてきたりもした。教師への安心感が生まれてきたのか、声を出すこと言葉にすることが楽しくなってきた様子だった。この絵本のように、簡単な、繰り返しの言葉とリズムは子ども達の心に浸透しやすく、また教師が楽しく表現することで、心を開きやすくなるのだと思った。

(2) 「はらぺこあおむし」(エリック・カール作 絵)のペープサートより(5月中旬)

お誕生会で見えた「はらぺこあおむし」のペープサートが楽しかったと話すので、教師が「歌もあるんだよ」と言って絵本のページをめくりながら歌ってみた。すると子ども達は毎日「はらぺこあおむし歌おうよ」と教師に要求する。本棚に絵本を置いておくと、絵本を手に取りCが歌っていた。降園時Cの母親にその様子を伝えると「毎日家で歌うので、絵本を買いました」と言う。すると「私もです」と2, 3人の母親が続く。

<省 察>

ペープサートをきっかけに、絵本に興味をもち、そして「大好きな絵本」ができた。このように絵本に興味をもち絵本が好きになるための環境づくりを大切にしていきたい。その時期の子どもの様子や教師の願いを組み合わせ、どんな絵本を選びどんな環境構成にすべきかをじっくり考えることが子どもの育ちにとって重要だと思った。

### (3) 「つなげよう」(10月下旬)

ある日「バランスロードをしよう」と4人の男児がソフト積み木を並べていた。そこへビニールのトンネルくぐりを楽しんでいた4人のグループが「これ、つなげよう」と言う。8人が、つながった道をバランスを取りながらぐるぐる回って遊んでいた。するとDが「トンネルの入り口がこわれている」と言ってトンネルの入り口を手で支えだした。そのことに気付いたEが「替わるわ」と言ってDをトンネルに向かって押す仕草が見られた。次にその二人に気付いたFが「持っとくよ」と言いDと交替をする。そして順番に入り口を持つ姿がみられた。

#### <省 察>

このころになると、絵本の内容が理解できる子どもも増え、表紙の絵の意味が分かるようになってきていた。子ども達が特に気に入っていたのは、読み終わった後、表紙の表と裏を広げて絵がつながっているかどうかを確かめることだった。そして友達と絵を描いてはつなげたり道を作って家とつなげていったりして、友達と遊ぶことを楽しむようになってきた。またこの事例から、トンネルの入り口を持っている子ども達は、他児に持つことを強要せず交替をすることを楽しんで遊んでいたようである。

みんなが楽しく遊ぶための一つの手立てとして友達を思いやる気持ちが確実に育っていると実感した。

## 5 おわりに

言葉遊びの要素をもつ絵本から始まった読み語りは、1回15分を超える物語の絵本に発展している。そして絵本の中の言葉以外にも、絵を見て文字にされていない言葉や出来事を読み取ることも出来るようになってきている。

このように、想像力が豊かにふくらんできて、自分の気持ち、相手の気持ちといった心のありようなどにも関心が深まってきている。

子ども達と一緒に絵本を読んだり感動したりしていく中で、子ども達の何気ないつぶやきやキラッと光る発想に成長を感じ、絵本の素晴らしさを改めて実感している。

これからも絵本をとおして話を理解し、言葉を使って考え、そうして言葉による伝え合いができる子どもに育つように、教師として援助をしたり、環境づくりに取組んだりしていきたい。

## 研究主題

# 一人一人の豊かな未来につながる教育

～共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育の視点から～

三庄小学校 教諭 近藤博美

## 1 はじめに

文部科学省は本年（平成24年）7月に、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）の中で、『特別支援教育は、共生社会の形成に向けて、インクルーシブ教育システム構築のために必要不可欠なものである。～中略～障害のある子どもが、地域社会の中で積極的に活動し、その一員として豊かに生きることができるよう、地域の同世代の子どもや人々の交流等を通して、地域での生活基盤を形成することが求められている。このため、可能な限り共に学ぶことができるよう配慮することが重要である。』と述べられている。本年度特別支援学級担任として、また特別支援コーディネーターとして取り組めることを考え実践していくこととした。

## 2 研究主題設定について

特別支援学級に在籍するAさんは、重度の障害を持ちながら保護者の強い希望で地域の学校である三庄小学校に入学し、6年間を過ごしてきた。Aさんの存在は学校の中で大変大きく、廊下や階段ですれ違うときには、「Aちゃんががんばって。」「一緒に行こう。」と声をかけたり手を繋いでくれる友だちがいる。Aさん自身にとっては豊かなコミュニケーションをとる機会となるばかりでなく、そのような優しい雰囲気の中で様々な刺激を受け、豊かに成長をしてきた。また周りの子どもたちもAさんに対する人を思いやる心ひいては豊かな人権感覚を身に付けながら育っていると感じている。

中学校は将来のことも視野に入れ支援学校への入学を希望している。本年は小学校生活をともに過ごしてきた友だちとは最後の1年となる。学校生活では離れてしまうが同じ地域に住む同級生として、また将来も地域とともに生きる仲間として支え合い繋がっていけるよう、Aさんとともに過ごす時間を大切にしてほしいと考えた。そのことはAさんにとっても、また周りの友だちにとっても豊かな未来につながると考える。

## 3 研究の実際

### ・交流学級での道徳（人権）学習 ～『宙に消えたありがとう』ひかり～

交流学級における人権問題学習で障害者問題について考えたとき、身近な存在のAさんに、自分たちがこれまでどのようにかかわってきたか、これからどのように共に過ごしていきたいかについて考えた。学習の終わりにAさん自身が語ることは難しいので、Aさんのお母さんからいただいた手紙を読み、Aさんの願いやお家の方の思いや願いを聞いた。我々教員も感銘を受けるほどの内容でありその手紙を読んだ子どもたちは、一人ひとりが自分のこれまでのかかわりを見つめ直し、より積極的にかかわっていこうと、気持ちが高められた。実際にその後のAさんに対する接し方には大き



な変容が見られている。今までAさんのことを思っても具体的にどう行動したらいいのかわからなかったり、照れがあって行動できなかったりした子どもたちが、積極的に自分から声をかけたり手を繋いだりする場面が多くなってきた。Aさんのことをもっと知ろうと話しかけたり休み時間には支援学級に遊びにきたりする姿も増えてきた。上級生の姿は、そのまま下級生達のお手本にもなっており、以前にも増して学校全体にAさんを支える雰囲気広がっている。

#### ・朝会発表・人権集会での取り組み

朝会での学年発表で友達の良いところや頑張っているところを紹介しあった。紹介する方もされるほうも少し照れくさそうにしながら、全校のみんなに友達を紹介することができた。Aさんについても頑張っていることや日頃の交流学級での姿を紹介した。6年間を過ごしてきた仲間として、またAさんの保護者の願いも心にとめながらの発表は、心温まるものであり、他学年の子どもたちの心にも届くものとなったと感じている。また、人権集会では『ハッピースマイル37!』を合い言葉に、いつも笑顔で繋がっていけるクラスにしようと言った。学級写真の真ん中にはいつもAさんの笑顔があってそれを支えるように友だちの笑顔が広がっている。これから先もこのような仲間として繋がっていきこうとする力強い宣言であった。



#### ・支援学級での生活単元学習（人権）の実践

生活単元学習で『やまもまつりをひらこう』という単元を設定し、友達や先生方を招待することにした。日頃は、お楽しみ会にしても招待される側になることがほとんどなので、自分が作ったおまつりにみんなを招待するという目標があることで、より相手を意識して意欲的に取り組めるのではないかと考えた。飾りや看板作りに始まり、くじ引きの景品を作ったり、招待状を作ったりと、教師と2人だけの用意にはかなり時間もかかったが、「〇〇ちゃんが喜ぶなあ。」「〇〇先生のも作らないかなあ。」と相手のことを思いながら活動に取り組むことができた。やまもまつりの当日は、たくさんのクラスメイトや先生方に囲まれながらくじ引き屋さんをしたりお土産を渡したりする生き生きとした姿が見られ、嬉しくも頼もしくも感じられた。教室の一角にはAさんと共に成長してきたことが実感できるように、1年生に入学してから今までの思い出の写真を展示したコーナーを設けた。懐かしい写真に目を細めながら自分の成長と共にAさんの成長も感じてもらえたのではないかと考えている。



#### ・三庄キッズ（異年齢集団活動）

本校では、異年齢の関わりの場として「三庄キッズ」という12の異年齢集団を構成して活動している。普段は関わりの少ない異学年の子どもたちと力を合わせて活動することから、高



学年は低学年の児童を思いやり、リーダーとしての自覚や責任、やさしさをもって行動することを学んでいる。また低学年は高学年の児童に大切にされることで、自尊感情をもち生き生きと活動している。Aさんもこの活動に喜んで参加している。異学年の友達がAさんの理解を深める機会ともなっている。Aさんを含め、どの子どももしっかりと自分の考えや思いを伝え、他の学年の児童に受け入れてもらう喜び、気持ちを一つにして協力して活動する楽しさなど、それぞれの学年に仲間意識が育ってきている。

#### ・各行事での取り組み

Aさんは、生活全般に部分的介助が必要であったり、体温調節が難しいため体調管理にも配慮しなければいけないことが多い。年間を通しての学校行事にも体調をみながら参加している。しかし、人なつっこく大変明るい性格であり、みんながしていることには自分なりに参加しようと積極的である。高学年になって体力もついてきたことや保護者の協力もあり、宿泊活動や修学旅行にも参加し友だちと楽しい思い出を作ることができた。今年の運動会では組立体操や高学年のリレーにも参加することができた。練習の時からほぼ同じ時間みんなと活動し、体調が優れないときは応援をしたり見学をしたりして時間を共にした。Aさんなりのその頑張りを友だちも理解し、運動会本番も声を掛け合い、力を一つにしてすばらしい演技をすることができた。Aさんの頑張りとそれを支える子どもたちの姿は、他学年の子どもたちだけでなく運動会を見に来てくださっていた他の保護者や地域の方々の心にも響いたのではないかと感じている。



#### ・『三庄小特別支援教育だより』の発行

特別支援教育への理解を深めていただくために、本年度より不定期ではあるが発行している。従来の特殊教育のイメージをもたれている保護者の方も少なくないように感じたので、今の特別支援教育について少しずつ記事にしたり、子育てをしていくなかでの悩みを気軽に相談できる場を紹介したりしている。

#### 4 結果と考察（子どもたちの変容）

これまで6年間ともに過ごし、障害があると知りながらその存在は特別ではなくなっていたAさんについて、あらためて考える機会を持つことで、特別に見るのではなく、子どもたち一人一人が人としてどう関わっていくのかを考える機会となった。Aさん自身はより良いコミュニケーションがとれるように日々取り組んでいる。「ありがとう。」「一緒に〇〇してね。」「〇〇ちゃん行こう。」とお互いの関わりがあるからこそできるやりとりの機会が以前にも増して増えてきた。以前は特定の友だちの名前しか出てこなかったAさんの口から、たくさんの友だちの名前が出てくるようになり、名前を呼ばれた友だちは照れくさそうに笑っている。どちらも笑顔になる瞬間が増えたことを嬉しく感じている。



## 5 おわりに

卒業まで残りわずかとなった。卒業して後違う学校に通ったとしても、この地域で生活することに変わりはない。障害の有無に関わらず、一人一人が豊かに地域で生活するためには、お互いの支え合いが必要である。道ですれ違ったとき、スーパーで出会ったときにひと声掛けられるような仲間になるために、小学校生活の残りの時間を大切に過ごさせたいと考える。

6年前、地域の学校を選択したときの保護者の不安な胸の内を今回お手紙という形で私たち教員も知ることができた。Aさんと共に生活することで私自身たくさんのことを学ぶことができた。子どもたち同様に人として教員としての自分を見直すこともでき、大変感謝している。

これからも共生社会の形成のために、インクルーシブ教育を更に推進していけるよう、特別支援教育に取り組んでいきたい。

参考：文科省 [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/houkoku/1321667.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/houkoku/1321667.htm)

## 研究主題

# 震災に学ぶ ～実践を通して防災意識を高めよう～

芝生小学校 教諭 園尾 淑子

### 1 はじめに

平成23年3月11日。世界に衝撃を与えた「東日本大震災」は、東北地方を中心に甚大な被害をもたらした。徳島県においても、近い将来、地震の発生が危惧されている。改めて地震へのしつかりした備えが急務となっている。

### 2 研究の目的

地震の知識を学び、地震に対する備えや自分たちにできることを考えておく機会をもち、いざというときに行動できるよう地震や防災について考える。

### 3 具体的な実践

#### (1) 6年生としてできること・・・小遣いの中から募金

4月、芝生小学校の最高学年になったばかりの時に、「東北のみなさんに募金をしよう」というプリントが配られた。子どもたちから、「震災直後にしたけれど、何度してもいいじゃないか。」という声が上がった。そして、自分の小遣いの中から、募金をしようということになり、クラス29名全員から募金が集まった。

#### (2) 修学旅行で人と未来防災センター見学・・・阪神大震災からの学び

5月には、修学旅行があり、その見学場所として、神戸の「人と未来防災センター」に行くことになり、事前に調べ学習をした。みんなが生まれていなかったときのできごとであったが、一人一人が真剣に調べることができた。

実際に見学してみると、映像や写真、実際のものなどから、地震の悲惨さを目の当たりにし、地震の怖さを知ることができた。子どもたちにとっては、衝撃的なことだったようだ。



#### (3) 地域防災避難訓練・・・学校のリーダーとして活躍

学校行事として避難訓練をした。芝生小学校は災害が起こった場合の避難場所になっているので、地域の方々とともに、避難訓練をすることは、たいへん意味のあることだと思い、今年度は、地域の方に呼びかけ、地震が起こった場合を想定して避難訓練を計画、実施した。

6年生は、案内、受付、地域ごとに集まるお手伝いをし、地域の方々と触れ合い、あいさつをしたり、言葉をかけていただいたりと貴重な体験をすることができた。また、西部県民局の方々にも来校していただき、地震クイズなどを通して、地震に対する知識や意識を高めることができた。



(4) 地震のしくみについて・・・グループでの調べ学習

地震について、調べたいことや知りたいことについて各グループに分かれて調べ、発表した。

- ・地震のしくみ ・揺れについて ・地震に備えて
- ・日本にはなぜ地震が多いのか
- ・大規模地震の被害を減らすために
- ・阪神淡路大震災 ・東日本大震災 ・南海地震に備えて



(5) 南三陸町からの学び・・・映像と写真、インタビューをして

- ・映像から

東日本大震災の映像を見て、地震の怖さや人々の思いを改めて知ることができた。自然の力のすごさ、人の力ではどうにもできない怖さを映像を通して一人一人が感じ取ることができた。

- ・写真から知ろう

南三陸町の地震の起こる前の平和でうらかな様子、地震の起こる前の静かな様子、地震が起これ、津波が寄せてきた信じられない様子、そして、今なお残る痛々しいがれきなどの記録写真。また、地震が起こった直後にボランティアで南三陸町へ食材を運んで、みんなに食べ物を供給した人々の写真。これらの写真を見ることによって地震の怖さや自分たちにできることを自発的に実行した方々のすばらしさも学ぶことができた。

- ・南三陸町から来た人に質問しよう

夏休み、南三陸町から小学生、中学生、保護者23名が三好に来ていたので、会いに行った。そして、話をしたり、質問に答えてもらったりする機会を得た。苦勞もし、傷つきもしたと思うが、みんな明るく振る舞っていて、芝生小学校の児童とも気軽に話をしてくれた。今、協力して欲しいことはと聞くと「がれきを早く取り除いて欲しい」という言葉を聞いて、胸がしめつけられる思いになった。

Q 地震が起こったとき、津波がきたとき、最初に思ったことは何ですか？

A とても怖かった

Q 避難した所は、どこですか？そこでの生活はどうでしたか？

A 小学校。ご飯は炊き出しで最初はおにぎりしか食べられなかった。

Q 東日本大震災が起きて、生活はどう変わりましたか？

A 家が流されて仮設住宅になったから、部屋が狭くなった。友達と会えなくなった。

Q 逃げるときどんなことを考えましたか。

A とても心配だった。

Q 津波が来たとき、どこにいましたか。

A 学校

Q 東日本大震災を経験して、ほかの人に言いたいことは何ですか。

A みんなつながっている。

Q 今、みんな協力してほしいことは何ですか。

A 早くがれきの撤去をしてほしい。



〈一言コーナー〉



〈お話を聞かせてください〉

(6) 「つなみ」の作文から感じ取ろう～『あたりまえのような幸せ』～

東日本大震災を経験した人たちの作文を読んで考えた。子どもたちからは、次のような意見が出た。「わたしたちは、毎日何不自由なく生活をしていることを当たり前と知っている。」

「震災を経験した人たちは、苦しく、思い出したくないたくさんのことを背負って毎日生きていることがわかった。」「わたしたちと同じ年齢の人たちもたくさんいることを知った。家族を亡くし、つらい思いで生活をしている人もたくさんいる。」「あの東日本大震災の前は、家族そろって幸せに過ごしていただろうと思うと自然の力の無情さを思う。」

子どもたちは、地震がおきて津波がきて、多くの人たちの命が奪われても強い気持ちを持って笑顔で耐えている姿に感動し、生きていることが幸せだと思い、あたり前の生活ができるのはほんとうに幸せなことだと感じたようだ。

(7) 今、できること・・・電気の節電

「無駄な電気を消そう。」「緑のカーテンを作ろう。」  
という意見が出て、実践した。



(8) 中央構造線の見学

三野町は、中央構造線が通っていて、大きな地震が起こっても、不思議ではない状況にある。実際に見学し、身を以て地震対策の必要性を感じたようだ。



(9) 非常食の試食・・・つくろう、食べよう

実際に非常食を試食した。炊き込みご飯をお湯でもどし、全校児童にパック詰めをして配布して試食した。6年生の児童がお世話をし、全校児童で分け合って食べる体験は意味があった。

(10) 地域マップ作り

災害が起こった時の地域マップ作りをした。水害、土砂災害、などを考えて色分けした。また、子どもたちと通学路を歩き、危険箇所の確認をして、写真を撮り、マップに貼付した。そして、自分たちがどこへ避難するか確かめた。地域に分かれてみんなで考え、書き込むことによって地域防災の意識が高まった。



#### 4 結果と考察

地震の学習を通して、実践できることはしたが、果たして身についたかどうかは、疑問である。しかし、子どもたちは、今回の学習を通して、地震の怖さを知り、防災の意識を高め、自分たちができることをしていきたいと考えた。そこで、今後も生活の中で、防災の意識を高め、自分の命を自分で守れる子どもに育てていきたい。

#### 5 おわりに

この3月11日で震災から丸2年が過ぎる。子どもたちはインタビューを通して、被害を身近に感じている。そこで、卒業前に全校で募金をして、南三陸町の小学校に手紙を添えて送る計画を立てている。

研究主題

**価値判断・意思決定する場面で活用できる知識の習得をめざす教師の手だて  
～「わたしたちの願いを実現させる市の政治の働きを調べよう」の学習を通して～**

白地小学校 教諭 神谷 美樹

### 1 はじめに

新任として、初めて三好の地へ赴任し、白地小学校で諸先生方のご指導をいただき初任者研修を終えました。3年目となる本年、6年生の社会科で実践研究を行うという機会に恵まれました。先輩の先生方からのたくさんのアドバイスやご指導を得ながら実践してきたことの概略を研究所報にて報告させていただくことにいたします。

### 2 校区と学校・学級の実態

白地小学校の校区は、池田ダムに沿い、国道32号線と192号線の分岐点に位置し、交通の要衝にある。古くは、白地城の盛衰と共に移り変わってきたが、明治・大正時代は、川船やいかだ組みの基地として人が集まり、賑わいを見せていた。現在は、隣接地の工場や事業所などへ勤める人が多くなっている。

白地小学校は、児童数56名の小規模校であるが、児童は純朴で明るく外遊びの大好きな元気な子どもたちである。保護者や地域住民の方たちの学校教育に対する関心が高く、公民館の諸団体から熱心な支援や指導を受け、ともに活動する機会が多く、地域の方のご指導で校区に残る史跡を探訪する学習も設けられている。“故郷の一員として共に生きる”ことを感謝し、地域への愛着と誇りを育て、地域に元気を発信していくことが本校の使命でもある。

本学級の児童は、男子5名、女子6名、計11名であり、明るく男女の仲がよい。社会科が好きな児童が多く意欲的に学習に取り組んでいる。これまでの学習をとおして、学習問題を自らのこととして捉え、主体的に学習を進めることができるようになってきている。しかし、客観的な根拠に基づいて自分の考えをまとめたり、友だちと意見交換をして、多面的に自分の考えをまとめることはまだまだ不十分である。

### 3 主題について

徳島県社会科部会の研究主題「よりよい社会の形成に参画する資質・能力を育てる授業の創造」研究副主題「価値判断・意思決定する場面で活用できる知識の習得をめざす教師の手だて」に沿って研究を進めてきた。そこで副主題に迫るために、次の3つの方法を考えてみた。①単元の学習過程三層六段階における「獲得させたい明確な知識」を整理し「知識の構造図」として表し、学習指導要領との関連や中心概念を明らかにする。②学習過程に位置づけた知識が「生きた活用できる知識」となる具体的な方策を研究し、実践化を図る。③講じた手だての効果を常にPDAサイクルで検証し、改善を図っていく。このような実践を通して、価値判断・意思決定する場面で活用できる知識体系を整理し、習得、定着させることができると考える。

本単元では、願いを実現させる政治の働きを学ばせる。身近な生活の中で政治の働きにより、実現したこと（政治の見える部分）と市役所や市議会、国が関連して行う政治（政治の見えに

くい部分)を調べ、これらを一体化して「市の政治のしくみ」として全体構造をまとめさせることがねらいである。これらを「要望」と「実現」というキーワードで結びつけ、双方からの働き(作用)を意識させながら学習を積み上げた。

教材として、子どもが政治を身近に感じ、関心や切実感をもてるよう、地元の池田第一中学校跡地の利用についての提案書づくりを取り上げた。そして、「提案(要望)がどのような政治の働きで実現に向かうのだろうか」と主体的に学ぶ意欲を喚起するような子どもの意識の流れに沿った学習計画を組み立てた。

#### 4 研究の仮説

- (1) 子どもにとって身近な地域教材を取り上げることで、直接体験をとおして学び、意欲的に学習を進めることができ、一人ひとりが生きた知識として習得していくことができるだろう。
- (2) 知識の定着を図る段階では、実際に政治が展開される場面をロールプレイで演じることにより、政治のしくみ、働き、手順についての理解をいっそう深め、次の段階で活用できる知識とすることができるだろう。
- (3) 思考の道筋や気づき、思いが表れるようにノートやワークシートを工夫・活用すれば、個の学びを広げ、深めることができるであろう。また、学習したことをふり返り自己評価の力を身につけることができるため、有能感を高めることができるだろう。

#### 5 研究の実際

##### (1) 単元の目標 単元名「私たちの願いを実現させる政治 [1]」

- ① 政治の働きに関心を持ち、身近な事例や市役所、市議会の働きなどについて意欲的に調べることとおして、市の政治のしくみを知るとともに、政治は住民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解できるようにする。
- ② 校区にある池田第一中学校の跡地利用について考え、政治の働きについての学習を通して根拠のある主張をつくり、提案書にまとめることができるようにする。

##### (2) 展開の概要 (10時間)

過 程	学 習 活 動
問題をつかむ	<p>①池田第一中学校跡地利用について考え、政治の働きについての学習問題をつくる。</p> <p style="text-align: center;">—— 【学習問題】 ——</p> <p style="text-align: center;">私たちの願いは、どのような政治の働きで実現されていくのだろうか。 ～池田第一中学校跡地利用の提案を通して考えよう～</p>





はじめの考えとして、福祉よりの意見が3人、地域活性よりの意見が8人でした。

予想を立てる  
調べ方を決める

- ②住民の願いが実現した身近な例を手がかりとして調べることによって、政治の働きを予想し、学習計画を立てる。
- ③地域のガードレールの設置について、ゲストティーチャーに願いの実現過程を聞き、フィールドワークで確かめる。



- ④池田中学校校舎建築に関わる政治の働きを資料を通して調べる。

ひとり(グループ)  
で調べる




- ⑤⑥市役所や市議会の見学と聞き取りをとおして、市役所・市議会のしくみや働きと税金について調べる。



みんなで確かめる

- ⑦市役所、市議会、国が関連した、市の政治のしくみを確かめる。
- ⑧要望が実現するまでの、市の政治の流れを確かめる。



	<p>ロールプレイで理解を深め、習得を図る。</p> <p>写真は三好郡市社会科部会 現場研修会の様子</p>  
<p>広げ深める</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>池田第一中学校跡地利用には、住民の福祉と地域活性のどちらを優先させるべきか考えよう。</p> </div> <p>⑨跡地利用には、福祉と地域活性のどちらを優先させるべきか考え、意見を出し合い、話し合う。</p> <p>⑩跡地利用について、学級としての提案書を作る。</p>

## 6 研究のまとめ 成果と課題

### 成果として

- ・ 身近な政治の例から市の政治へと学習を進める単元構成は、予想や見通しをもち、意欲を継続して学び続ける子どもの育成につながった。
- ・ 構造化され、整理された政治のしくみ、働き、手順の理解を深めるのに、ロールプレイは効果があった。自分が演じ、人の演技を見ることによって、生きた知識として習得・定着が図れた。
- ・ 個人のノートやワークシートに思考の流れや気付きを記入させ、教師のコメントを入れることで、学習意欲の継続や思考の広がりを図ることができた。

### 課題として

- ・ 身近な政治を教材化して単元を組み立てるには、教材研究のための多大な労力と時間がかかる。
- ・ 教科書で扱われている教材と同様な例が地域にはなく、代替の教材を開発しなければならない。
- ・ 今回教師作成の台本でロールプレイを行った。今後、子どもが台本を作成する、ロールプレイ後に討論する等のより効果的な手法の研究が必要である。
- ・ 個人のノートとワークシートを併用して学習を進めたが、ノートとワークシートの接続に課題が残る。連続した学習の記録として見直したり残したりする場合、どちらかにまとめる方がよいかもしれない。



## 研究主題

ふるさとを愛し、いきいきと学び合う心豊かな子どもの育成  
～人との豊かなつながりを通して、認め合い、  
支え合い、ともに生きる教育活動の創造～

櫛生小学校 教諭 岩崎 真人

### 1 はじめに

櫛生小学校は全校児童28名の小規模校である。児童は明るく素直で、学習や遊びなど一日を通して異学年で仲良く助けあって活動する場面が多い。

ただ、少人数のため、人間関係が固定しがちな面も見受けられる。

平成22年度には、近隣2校と合併し、校区が広がっている。自然に恵まれ、近くには祖谷のかずら橋があり、観光地として休みの日にはたくさんの観光客が訪れる風光明媚な土地である。

### 2 研究の目的

学校教育目標を「明るく」「強く」「正しく」伸びる櫛生っ子の育成とし、具体的目標として、「ふるさとを愛し、自他を認め合う心豊かな児童の育成を掲げている。

そのために、ふるさと西祖谷の高齢者の方々とのふれあいを深め、その生き方や思いについて学ぶことを通して、児童のふるさとに対する思いを高めていきたい。また、豊かな体験活動を通して、自分や友だち、学校・地域のよさに気づき、たくましく心豊かに生きようとする態度も育てていきたい。そして、子どもたちが互いに認め合い、自分の気持ちを自分の言葉で分かりやすく伝え合う力（コミュニケーション力）を育てるとともに、自他を大切にしようとする心情を養う活動にも重点を置きたい。

以上のことをふまえて、学校行事や特別活動、生活科・総合的な学習の時間を中心に全職員が協力し合ってふるさと学習に取り組んでいる。

### 3 研究の方法

実践例 『～ふるさと学習を通して～』

#### ①ふすま絵制作およびふすまからくり実演

3年生以上の児童15名が総合的な学習の時間を中心に取り組んだ。

2学期以降の総合的な学習の中心的な内容とした。

ふすまからくりとは、この西祖谷地域に古くから伝わる伝統芸能（三好市の有形文化財に指定）で、それを後世に残そうと、各地でふすまからくりの復元・実演が行われている。櫛生小学校でも自分のふるさとの文化に興味・関心を抱かせ、地元を愛する心を育成したいと考え、ふすまからくりの復元・実演に取り組むことにした。

1学期には、調べ学習として、ふすまからくりとはどういうものか、ふすまからくりの歴史や由来について、インターネットで検索したり、ふすまからくりにあずさの方達の願い等について地域の方から話を聞いたりした。

(2012.7.5)



### ◎ ふすま絵制作

夏休みに、講師として武田洋子さん・杉本孝司さんを招き、ふすま絵の復元がスタートした。

#### ○ 下地色塗り (2012.8.10)

最初の行程として、ふすま 10 枚（裏表）に白い絵の具を塗り、土台を完成した。ていねいに細かいところまで配慮して塗る者、塗りむらがある者、それぞれのふすまに向かって真剣に作業していた。



#### ○ ふすま絵写し取り〔トレーシングペーパーに絵を転写〕(2012.9.4)

まず、ふすまのサイズに合わせてカーボン紙を切り、ふすま絵の上にカーボン紙をのせ、鉛筆でていねいになぞっていくという作業を行った。

児童の日記より

・・・ふすま絵で黒い部分をぬりました。二人組でかきました。「あ～、ここむずかしそう」と言いながらして行って、うら返すともっとむずかしそうでした。・・・これを発表するのかなと思いました。

#### ○ ふすま絵写し取り〔カーボンに絵を転写〕(2012.9.11)

児童の日記より

今日はふすま絵で黒い所をぬりました。ぬるのはけっこう簡単でした。でもずっとぬり続け

手がつかれたので、ちょっと苦しかったです。・・・最後のを見る

とてもきれいにできたから、すごくうれしかったです。



と



- ふすま絵制作〔色づけ〕（表・・・2012.9.18）（裏・・・2012.9.25）

児童の日記より

ふすま絵に色をぬりました。最初、色をぬるのはぼく一人だったので、ちょっと不安でした。・・・ならべてみると船の部分ができていないけど、とてもきれいでした。昔作ったふすま絵とよくにっていました。・・・次の時間にするうらも上手にしたいです。



- ふすま絵制作〔色づけ（仕上げ）〕（2012.10.2）



- ふすま絵制作〔鑑賞会〕（2012.10.23）

完成後の鑑賞時、武田先生からは、「みんな積極的に頑張った。最初はおどおどしていたのが次第に大胆になった。全員で一生懸命に頑張ろうという気持ちが良く表れていてうれしかった。」などの言葉をいただいた。

児童の感想

- ・6年生 昔描かれた絵を同じように描くこと、大きく描くこと、でかい筆で描くことも初めてで難しかったけど、途中から楽しいとえるようになってきた。
- ・5年生 空など絵が難しかった。いろいろな色を作ったりするのがいい経験になった。
- ・4年生 自分でひとりで描いたのではなく、みんなで協力して描いたので上手にできた。離れて見ると、迫力があつた。
- ・3年生 こんな大きな絵を描くのは初めてだった。この経験を写生の

生かしたい。



思

時に



- ふすまからくり操作練習〔重末農村舞台〕（2012.10.30 11.2）

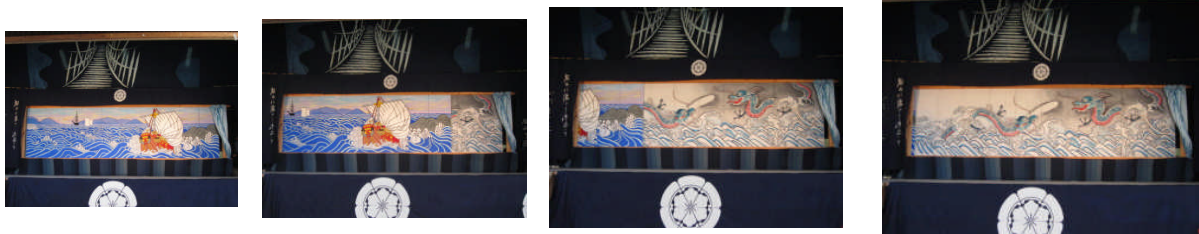
- ふすまからくり公演〔文化祭りにて〕（2012.11.3）

二回の中からくり操作の練習後、地域のお祭りである『文化祭り』の出し物の一つとしてたくさんの方の前で、自分たちの復元したふすまを公開・公演する機会を設けていただいた。子どもたちは緊張の中にも自分たちが描いたふすま絵を上手に操作できたことに満足感を覚えていた。また地元の方

にも伝統あるふすまからくりが，子どもたちによって公演されることに感動していただいた。

今回の活動を通して，地元西祖谷の伝統文化にふれる機会を得ることができた。また，先人の業績を知ることができ，地域を大切にする心も育ってきたように思う。

三学期には，今度は自分たちで考えた絵をふすま絵にしようと全員の意見が一致した。



## ②こんにゃく作り

1・2年生13名で生活科の時間を中心に実施した。地元の特産物であるこんにゃくを取り上げ，地域の方をゲストティーチャーに招いていもほりからこんにゃく作りまで指導や助言をいただきながら行った。

### ○こんにゃくいもほり（2012.7.9）



### ○こんにゃく作り〔手順〕（2012.7.17）

- ・ゆがいたこんにゃくいもを持ってきてもらう
- ・ミキサーにかける
- ・こねる
- ・液体を入れる
- ・丸める
- ・ゆでる
- ・できあがり



さつまいもの栽培や収穫の時にも，ゲストティーチャーに協力していただいた。活動を通して，児童は主体的に植物の世話や収穫を行ったり，自分の周りの人たちと関わったりしながら植物に対して興味・関心を持つことができるようになった。また，関わってくださった人たちへの感謝の気持ちを素直に表現することができた。

## ③せせらぎ給食およびゴミ0運動

榎生小学校の校区を流れる祖谷川での活動を通して，児童相互の仲間意識を深

めるとともに、身近に広がる地域の自然を大切にする心を養うことを目的にふれあい公園を中心として全校児童で行った。

はじめの式の後、なかよし班に分かれ、川原にシートをひいて楽しい給食のひとときを過ごした。自然に囲まれ、いつもとは違った環境で食べる給食は、おいしさも格別であったように思う。そして片付け後には場所をふれあい公園に移して、児童会でゲームを行った。

その後はゴミ0運動ということで、ここでもなかよし班を中心として、ゴミ集めを実施した。活動後、児童は「ゴミ拾いをすると、他の人が気持ちよくなる。終わった後は心がすっきりした気分でした。」と日記に感想を記していた。

奉仕活動を通して、自分たちの生活環境を改善したり向上させるとともに、人と自然との調和を図ることの重要性についても気づかせていきたい。



#### ④地元の高齢者の方との交流

毎年低・中・高学年に分かれて、デイサービスセンター訪問を実施している。

今年は子どもたちの自主性を育てるということで、仲よし班ごとに4つのグループに分かれて実施した。高齢者の方といっしょに歌を歌ったり、演奏したり、ゲームをしてふれあいのひと時を過ごすことができた。肩たたきをしてもらいながら子どもと話をしているおばあちゃんの目に浮かんでいた涙が印象的であった。

また、老人ホームにも訪問して、子どもと高齢者の方とのふれあい・交流の時間も設けている。単発に終わるのではなく、年間を通じて計画的な交流を図っていくことが課題である。

その他にも運動会やふれあい祭りに地域の高齢者を招いたり、夏休みに老人会との交流を図ったりしている。また昨年度は昔遊びの会やありがとうの会を実施した。

#### 4 おわりに（考察）

ふすま絵復元・からくり公演、こんにやく作り、高齢者との交流など、様々なふるさと学習を通して、目標の前半である”ふるさとを愛し”の部分には、個人差こそあれ、各児童にその心は育ってきているように思える。

学年の違いによる活動内容の検討、活動に系統性を持たせること、次年度以降への引き継ぎを円滑にすることなど多くの課題もあるが、これからも年間を通してふるさとを愛し、誇りに思える児童を育てていけるような活動を全教職員が一体となって取り組んでいきたい。



## 研究主題

### 地域とつながる食に関する指導

三好市立三野中学校 主事 小出 真理子

#### 1 はじめに

三野町は、徳島県の北西部、吉野川の中流域北岸に位置している小さな町である。徳島県が選定している「とくしま水紀行 50 選」の 37 番に選ばれている大平の湧水がある。

子どもたちは明るく元気で、挨拶もしっかりできている。また、この地域の人々の学校教育への関心は高く、学校の取組にも協力的である。

#### 2 研究の目的

近年、子どもたちを取り巻く食環境・社会環境は変化し、様々な食べ物を簡単に入手できるようになってきた。核家族化や共働き家庭の増加等により、家庭調理にかかる時間も短くなってきている。さらに、地域で昔から受け継がれてきた郷土料理を調理したり食べたりする機会も減ってきている。国際化が進む中で、世界で活躍できる子どもの育成が望まれるが、おのずと日本また自分の住んでいる地域を見つめることも必要となってくる。平成 17 年に制定された食育基本法に基づく食育推進基本計画では、次世代を担う子どもたちに日本の食文化の理解を図るため、学校給食に地場産物を使用した献立を積極的に取り入れることが求められている。また、新学習指導要領の総則には、食育の推進が明記されており、技術・家庭科において「地域の食材を生かすなどの調理を通して、地域の食文化について理解をすること」と示され、地域と密着した食に関する指導を行うことが推奨されている。

三好郡・市の小学校教育研究会食育部会が平成 22 年度に行ったアンケートでは、「地域の郷土料理を知っていますか」との問いに、「知っている」と答えた生徒は 18.3%と、かなり低い数値であった。また B 級グルメなどを郷土料理だと勘違いしている生徒も多くいた。

そこで、学校栄養職員として家庭科教諭を始め諸先生方と連携をとり、子どもたちが食体験を通して徳島県や地域に関心を持ち、郷土を愛する心を育めるよう本研究を行った。

#### 3 研究の実践

##### (1) 授業

##### ① 干しいたけ作り

家庭科「保存の仕方を考える」の単元において、三野町の特産物である菌床しいたけを使って干しシイタケを作った。学校給食にしいたけを納品してくれている農家の方にしいたけを納品してもらった。2、3 日天日干しし、冷蔵庫で保存した。3 学期に調理実習をする予定である。



##### ② 朝ごはんレシピコンテスト

夏休みの課題として「三野町の地場産物を使った我が家の朝ごはんレシピ」を募集した。しいたけ、オクラやトマト、すだちなど三野町で採れる地場産物を使ったアイデアあふれるレシピが多数集まった。保護者には料理の感想を記入してもらった。

また保護者への啓発として、優秀なレシピ数点を学校文化祭で展示した。さらに地域への啓発として、地域のボランティア団体に依頼し、商工祭でも展示する機会をいただき、地域の人にも発信した。



### ③ 調べ学習

家庭科の授業において、「わが町・三野町について調べよう」「地域の食材について調べよう」のワークシートを用いてインターネットで調べ学習を行った。

### ④ 三野のはっさくジャムを使った蒸しパン作り

三野町の主婦が中心となり立ち上げた農作物特産品研究グループ「紅葉の郷 夢工房」の方を講師(学校支援ボランティア)として招き、三野の特産物のはっさくジャムを使った蒸しパンの作り方を教わった。またグループ発足やはっさくジャムの商品化の経緯をお話いただいた。そのままジャムとして食べた時と、蒸しパンに加えた時の風味の違いも体験した。



### (2) 献立及び放送原稿

地元の JA ふれあい産直市と連携をとり、三好郡市で採れた野菜を学校給食献立に活用している。その月に使用できる地場産物は給食だよりに掲載するとともに、毎日の放送原稿で生徒へ発信している。

徳島県の郷土料理である「ならえ」「でんぶ」「ふしめんじる」なども献立に取り入れた。また、夢工房さんの「三野のはっさくジャム」を使った若鶏のはっさくふうみ焼きは人気メニューの1つである。



生徒が三野町や徳島県の地場産物や郷土料理を知り、地元とのつながりを実感できるよう取り組んだ。

### (3) 給食だより及び通信

給食で取り入れた郷土料理のレシピは給食だよりに掲載し、家庭でも実践できるようにした。また、給食献立の写真は学校のHPにアップしインターネットでも閲覧できるようにした。調理実習の様子や「地場産物を使った我が家のおすすめレシピ」は食育通信に掲載し、保護者への啓発につなげた。

#### (4) 三好郡・市栄養職員部会での取り組み

三好郡・市の栄養職員で2か月に1回発刊している食育通信「みよしっ子」では、徳島の郷土料理や地場産物などを紹介している。また、学校掲示物として徳島の郷土料理や地場産物を紹介するポスターを作成した。

## 4 成果と課題

これまでは、地域でどんな野菜や果物が作られていて、どんな郷土料理があるのか全く知らなかった生徒もいた。しかし調べ学習や調理実習を通して、三野町や三好郡・市の地場産物や郷土料理にはどのようなものがあるかをまず知ることができたように思う。

レシピコンテストでは、普段家庭で食べている料理を紹介した生徒は親からその作り方を教わることができた。また新たにレシピを考えた生徒もおり、保護者に褒めてもらえたことで自信につながった生徒もいたようだ。保護者からは「また作ってもらいたい」と期待する声があった。家庭で料理をすることで生徒と保護者が会話するきっかけになったようだ。また三野町の地場産物を使ったレシピを地域の人が参加するイベントで展示できたのはよかった。ボランティア団体の方からは大変素晴らしい取り組みであると共感していただいた。はっさくジャムを使った蒸しパン作りでも、三野町の「紅葉の郷 夢工房」の方を学校支援ボランティアの講師として迎えたことで普段の調理実習とは違った緊張感があり、生徒は地域の方の話を熱心に聞いていた。これらの取り組みを通して、地場産物や郷土料理について学ぶ上で家庭や地域との連携はとても大切であると感じた。また給食献立にもはっさくジャムを取り入れていたため、はっさくジャムを知っている生徒もいた。給食献立と授業を関連付けることができたことは良かった。また、給食献立に地場産物や郷土料理を継続して取り入れたことで、地場産物や郷土料理への認識が高まってきたように感じる。「でんぶ」などの郷土料理は初めて食べる生徒も少なくなく、根菜類を多く使った献立であったため抵抗感があった生徒もいたようだ。しかし、郷土料理を知る良いきっかけになったように思う。学校給食は一番の教材になると実感した。

## 5 おわりに

取り組みは今も継続しており事後のアンケートを取っていないため、どのくらい理解が深まったかを数値で確認することはできていない。しかし、調べ学習や調理実習、また給食献立を通して地域への興味を高め、以前より理解を深められたのではないかと思う。昔の人から受け継いできた郷土料理を、今後もずっと受けついでいてもらいたいと思う。また将来、県外や海外に出て行く時には、地域を誇りに思い、自分の地域のことを周囲に伝えていけるようになってもらいたいと願っている。そのために学校栄養士の立場から、今後も家庭・地域と連携しながら生徒にきっかけを作っていきたいと思う。

## 研究主題

社会科における言語活動の充実  
～社会的事象の意味、意義を解釈する学習や、事象の特色や  
事象間の関連を説明する学習における指導の工夫～

三好中学校 教諭 片山 徹

### 1 はじめに

最近の社会科のテスト問題は、「文章・資料・グラフ・図表を読み取り解く問題」や「文章を簡潔にまとめ書く」といったような問題が多くなっている。それに対して、一問一答なら解けるが文章・資料・グラフ・図表が出ると対応できないといった生徒や、文章をまとめ表現することが苦手な生徒が多く正答率が低いようである。

### 2 研究実践

そこで、文章・資料・図表・グラフを正確に読み、それをまとめ説明する（表現する）力を身につけさせるために、普段の授業で次のような取り組みを行ってみた。

- ① 文章や資料を正確に読みとるため、3学年とも毎時間、全員に教科書を読ませるようにした。

#### 留意点

- ひっかからず、正確にすらすら読めるようにする。
  - 口を大きく開け、相手に聞き取りやすいはきはきとした声で読むようにする。
  - 課題を見つけさせる時などは、授業の最初に全員で声を合わせて読ませる。
  - 授業にメリハリをつける時などは、一文で次々に交代して読ませる。
  - 授業内容を確認する時などは、全員に各自で習ったところを読ませる。
- これらを、時と場合により組み合わせて毎時間音読をさせるようにしている。

- ② 文章や資料の関係を理解する力を身につけるさせるため、線を引かせるようにする。

#### 留意点

- 重要語句には、マーカーペンで線を引かせる。  
(マーカーペンの色を使い分けることにより、人名・法令・戦、事件などをわかりやすく整理するようにする。)
- 重要語句の説明文には、波線またはアンダーラインを引かせるようにする。
- 重要語句は教師が指定し、説明文は自分で見つけ波線またはアンダーラインを引かせる。
- また、その逆で説明文を教師が指定して、重要語句は自分で見つけマーカーペンで(人名、法令、戦・事件等)色分けをし、線を引かせる。
- 授業の終わりに、本時のまとめとして各自で音読をし、重要語句や大切な文章を読みとらせ線を引く(鉛筆で)。最後に答えを示しマーカーペン等で正確に線を引かせる。これらを必要に応じて使い分け、授業に取り入れるようにしている。

- ③ 資料・グラフ・図表等を見て、文章にまとめたり、説明したりする力を身につけさせるため、各学年で次のような取り組みをした。

1年生の地理では、「いろいろな特色で都道府県をとらえよう」の単元で自分の好きな





3年生の公民では、身近にあって利用しやすく、多種多様な情報がふくまれている新聞を活用することは有効だと考えた。新聞から情報を収集し、それを選択したり比較したりして、自分の考えを表現することや、まとめた内容を相手によりわかりやすくするために効果的に書き換えたりする活動は、思考力、判断力、表現力等の育成につながるとともに、生徒が主体的に情報にかかわっていく態度や、情報を活用する力を身につけることにも役立つと思い、「新聞切り抜きノート」を作り、自分の感想や意見を書かせ発表させようと考えた。

留意点

- 「新聞切り抜きノート」ではできるだけ政治的・経済的な記事を取り上げ、自分の考えや意見をふまえて、わかりやすくまとめ発表できるように工夫する。



### 3 おわりに

このような取り組みによって、「文章・資料・グラフ・図表をしっかりと読みとり解く問題」や「文章を簡潔にまとめ書く」といったような問題に対して、少しずつではあるが文章・資料・グラフ・図表を読み取る力や、これを考察し、考察した課程や結果をまとめたり、説明（表現）できる生徒もできてきた。また、テストでの正答率も少しずつではあるが上がってきたようである。今後もこのような取り組みをより一層研究工夫し、力を身につけさせていきたい。



## 歴代委嘱研究員一覽

年度	幼稚園		小学校					中学校					教頭
53		宮成治夫(加茂小)		佐藤健(白地小)	池田信夫(山城小)			藤内重美(三好中)				野崎利夫(西祖谷中)	黒島靖郎(三野中)
54	西浦陽子(有瀬幼)	宮成治夫(加茂小)		佐藤健(白地小)	池田信夫(山城小)			藤内重美(三好中)				野崎利夫(西祖谷中)	黒島靖郎(三野中)
55	南清美(佐野幼) 中名美智子(池田幼) 上野玲子(池田幼)	大西和子(西庄幼)		岡田憲昭(三縄小)	園尾ツユ子(大和小)			上田正治(三好中)	馬場宏(池田一中)				久保田文夫(政友小) 仁木札次郎(西祖谷中)
56	南清美(佐野幼) 中名美智子(漆川幼) 上野玲子(池田幼)		岡田憲昭(辻小)	大西陽佳(池田小) 松永博(池田小)			向井敬治(栃之瀬小)	上田正治(三好中)	馬場宏(池田一中)				中川公比人(三好中) 宇山重明(河内小)
57	正木一子(西井川幼) 梅安佳子(井内幼)			賀川信義(川崎小)			藤基理(有瀬小) 近藤讓(櫛生小)					村上義正(西祖谷中)	上野博(櫛生小)
	幼稚園	小学校1区	小学校2区	小学校3区	小学校4区	小学校5区	中学校1区	中学校2区	中学校3区	中学校4区	中学校5区	教頭	
58	福島はるみ(三縄幼) 川原温子(白地幼)	石原秀昭(東谷小) 横田和子(絵堂小)	土井清子(辻小) 中山年次(足代小助)	石井一次(三縄小) 中本正則(池田小)	酒井直美(西宇小) 阿部勝利(上名小)	川端知義(有瀬小) 河西慎次(和田小)	高井和裕(三加茂中)	尾関寛(三好中)	湯藤章皓(池田中)	浅野源二(山城中)	喜多雅文(東祖谷中)		下川亀市(菅生小)
59	福島はるみ(三縄幼) 川原温子(白地幼)	石原秀昭(東谷小) 横田和子(絵堂小)	土井清子(辻小) 中山年次(足代小助)	石井一次(三縄小) 中本正則(池田小)		川端知義(有瀬小)	高井和裕(三加茂中)	尾関寛(三好中)	湯藤章皓(池田中)	浅野源二(山城中)	喜多雅文(東祖谷中)		
60	大西佳代子(吾橋幼) 井下章江(西宇幼)	坂東正毅(三庄小) 瀧下朋之(王地小)	細川文男(昼間小) 東條英彦(井内小)	近藤宏美(箸蔵小) 上田明彦(佐野小)	小島優(平野小) 久積勇(上名小)	光永裕美(吾橋小) 向井敬治(落合小)	宇山好治(三野中)	三木碩子(井川中)	近藤頼子(池田一中)	都築由江(大野中)	松本忠雄(西祖谷中)		
61	大西佳代子(西岡幼) 井下章江(下名幼)	坂東正毅(三庄小) 瀧下朋之(王地小)	細川文男(昼間小) 東條英彦(井内小)	近藤宏美(箸蔵小)	小島優(芝生小) 久積勇(上名小)	光永裕美(吾橋小) 向井敬治(落合小)	宇山好治(三野中)	三木碩子(井川中)	近藤頼子(池田一中)	都築由江(大野中)	松本忠雄(西祖谷中)		
62	大西敏子(絵堂幼) 渡辺千枝(太刀野山幼)	喜多美紀子(加茂小) 宮原伸次(芝生小)	川村正光(井内小野住) 高岡直史(足代小)	森上順子(馬路小) 齋藤孝(川崎小)	井内正晴(平野小) 佐藤敬一(山城中)	三宅康仁(善徳小) 逸見勉(栃之瀬小)	大南千世(三加茂中)	谷沢康夫(三好中)	藤野千恵美(池田中)	下川隆(山城中)	中上斉(東祖谷中)		
63	大西敏子(絵堂幼) 渡辺千枝(太刀野山幼)	喜多美紀子(加茂小) 宮原伸次(芝生小)	川村正光(井内小野住) 高岡直史(足代小)	森上順子(馬路小) 齋藤孝(川崎小)	井内正晴(平野小) 佐藤敬一(山城中)	三宅康仁(善徳小) 逸見勉(栃之瀬小)	大南千世(三加茂中)	谷沢康夫(三好中)	藤野千恵美(池田中)	下川隆(山城中)	中上斉(東祖谷中)		
元	国見マチ子(絵堂幼) 斎藤光子(三野幼)	藤本政義(王地小) 坂野町子(三庄小)	天竹勉(昼間小) 前川順子(辻小)	吉岡弘恵(池田小) 久保徹(箸蔵小)	森勝正(河内小) 小笠健二(大野小)	森本義博(櫛生小) 和田初枝(落合小)	坂部栄子(三野中)	頭師正明(井川中)	小島治子(池田一中)	大畑知(大野中)	住友恵子(西祖谷中)		
2	国見マチ子(絵堂幼) 斎藤光子(三野幼)	藤本政義(王地小) 坂野町子(三庄小)	天竹勉(昼間小) 前川順子(辻小)	吉岡弘恵(池田小) 久保徹(箸蔵小)	森勝正(河内小) 小笠健二(大野小)	森本義博(櫛生小) 和田初枝(落合小)	坂部栄子(三野中)	頭師正明(井川中)	小島治子(池田一中)	大畑知(大野中)	住友恵子(西祖谷中)		
3	山口悦子(増川幼) 横田嘉代子(昼間幼)	小笠松美(王地小) 大瀧和彦(加茂小)	藤野圭一(足代小) 為実敬子(西井川小)	武内隆史(出合小) 真鍋宏実(馬場小)	竹野啓治(大和小) 篠原聡(下名小)	細川文男(櫛生小) 松村直也(和田小)	新居克佳(三加茂中)	嵯峨久明(三好中)	西岡ひとみ(池田中)	佐藤英一郎(山城中)	島本富美子(東祖谷中)		
4	佐々木隆子(東山幼) 井上淳子(足代幼)	大瀧和彦(加茂小) 小笠松美(王地小)	為実敬子(西井川小) 藤野圭一(足代小)	武内隆史(出合小) 真鍋宏実(馬場小)	竹野啓治(大和小) 篠原聡(下名小)	松村直也(和田小) 細川文男(櫛生小)	新居克佳(三加茂中)	嵯峨久明(三好中)	西岡ひとみ(池田中)	佐藤英一郎(山城中)	玉木富美子(東祖谷中)		
5	岡久尚子(白地幼) 矢野聡子(出合幼)	辻宏明(芝生小) 田岡茂樹(加茂小)	中川糸子(足代小) 齋藤孝(西井川小)	坂本武彦(白地小) 伊丹賢治(三縄小)	田中敬子(上名小) 志磨昭子(大和小)	谷恒二(吾橋小) 大塚一志(栃之瀬小)	尾関英知(三野中)	井川秀樹(井川中)	入江宏明(池田一中)	西浦陽子(大野中)	三橋和博(西祖谷中)		
6	岡久尚子(白地幼) 矢野聡子(出合幼)	辻宏明(芝生小) 田岡茂樹(加茂小)	中川糸子(足代小) 齋藤孝(西井川小)	坂本武彦(白地小) 伊丹賢治(三縄小)	田中敬子(上名小) 志磨昭子(大和小)	大瀧和彦(吾橋小) 大塚一志(栃之瀬小)	尾関英知(三野中)	井川秀樹(井川中)	入江宏明(池田一中)	西浦陽子(大野中)	三橋和博(西祖谷中)		
7	大久保珠美(池田幼) 國金砂恵子(野呂内幼)	松田徳子(王地小) 中川斉史(三庄小)	真鍋宏実(昼間小) 土井清子(井内小)	中川法子(池田小) 川人成子(三縄小)	井後辰哉(政友小) 峯川郁代(山城中)	濱口久弥(吾橋小) 森本誠司(落合小)	上田尚(三野中)	元木康代(三好中)	村上義昭(池田中)	山田泰弘(山城中)	邊見隆史(東祖谷中)		
8	國金砂恵子(川崎幼) 大久保珠美(池田幼)	松田徳子(王地小) 中川斉史(三庄小)	真鍋宏実(昼間小) 土井清子(井内小)	中川法子(池田小) 川人成子(三縄小)	井後辰哉(政友小) 峯川郁代(山城中)	濱口久弥(吾橋小) 森本誠司(落合小)	上田尚(三野中)	元木康代(三好中)	村上義昭(池田中)	山田泰弘(山城中)	邊見隆史(東祖谷中)		
9	岡尾千恵(下名幼)	原敏二(三庄小)	中川貴史(昼間小)	篠原晃代(馬路小)	小笠原誠(平野小)	徳善之浩(名頃小)	三好康彦(三加茂中)	国友博司(井川中)	伊丹尚子(池田一中)	大西恭司(大野中)	島本清(西祖谷中)		
10	木村恵美子(西岡幼)	野町孝英(芝生小)	石井文子(辻小)	島田晴代(野呂内小)	篠原義正(河内小)	岩崎順子(善徳小)	青山貴幸(三野中)	上田美恵(三好中)	坂本浩江(池田中)	田村裕(山城中)	大谷一幸(東祖谷中)		
11	三木香代(西庄幼)	森北直樹(加茂小)	中村瑞穂(足代小)	山下史記(佐野小)	河野通之(大野小)	向井ひろみ(菅生小)	平尾治美(三加茂中)	藤本恒幸(井川中)	尾崎真紀(池田一中)	新見哲也(大野中)	大倉俊之(西祖谷中)		
12	渡辺千枝(三野幼)	平田公彦(太刀野山小)	小角昌美(西井川小)	三好美智代(西山小)	谷口政代(下名小)	品川知美(櫛生小)	宮成万寿美(三野中)	川人勝久(三好中)	内田公生(池田中)	白井正道(山城中)	宮成誠樹(東祖谷中)		
13	岡本久美(西井川幼)	三橋洋子(西庄小)	今川仁史(東山小)	生藤元(箸蔵小)	三橋泰(落合小)		玉木富美子(三加茂中)	川人祐子(井川中)	西岡ひとみ(池田一中)	板東祥子(西祖谷中)			
14	大西恒子(井内幼)	喜多とよみ(王地小)	細谷加代子(井内小)	近藤直美(池田小)	瀧下光子(西宇小)		辺見俊二(三野中)	入江宏明(三好中)	川人恵美(池田中)	根津道子(東祖谷中)			
15	山中あけみ(箸蔵幼)	樋口隆則(絵堂小)	加藤公夫(昼間小)	近藤明美(三縄小)	松浦理恵(善徳小)		坂部公章(三加茂中)	山内幸子(井川中)	高田和枝(池田一中)	大谷一幸(山城中)			
16	新居利枝(馬路幼)	松代容子(芝生小)	福田ミカ(辻小)	松下寛興(白地小)	井上清隆(栃之瀬小)		村上義昭(三野中)	野田圭祐(三好中)	峰友眞弓(池田一中)	安田恵(西祖谷中)			
17	古井智恵子(善徳幼)	武田淳子(三庄小)	佐藤仁美(足代小)	向井ひろみ(馬路小)	山中祐二(大野小)		玉木利典(三加茂中)	立花久(井川中)	久保喜昭(池田中)	岡本博一(東祖谷中)			
18	谷本紀子(大野幼)	平尾佐知子(加茂小)	北川ひとみ(王地小)	渡邊真弓(川崎小)	岡本悟(櫛生小)		木藤和恵(三好中)	宮浦理恵(三野中)	沖原真紀(西祖谷中)	丸岡美枝(山城中)			
19	佐藤重美(東山幼)	平野貴志(東山小)	豊田昌弘(西井川小)	木内晃(佐野小)	猪子研司(和田小)		藤本智恵(三加茂中)	大石さえ子(井川中)	中川浩幸(池田一中)	ナサーニョ・デネビー(東祖谷中)			
20	鳥首こづえ(加茂幼)	邊見明美(絵堂小)	井原理恵(芝生小)	宮本真吾(西山小)	河野恵子(山城中)		垂水恵子(三好中)	窪田和弘(三野中)					
21	大西照子(西井川幼)	和田光司(西庄小)	小角昌美(井内小)	中妻稔子(箸蔵小)	森祐大(吾橋小)				尾嶋麻子(池田中)	山口雄三(山城中)			
22	釈子育香(井内幼)	森幸子(昼間小)	松本珠実(王地小)	永山睦子(池田小)	清重正俊(栃之瀬小)		渡辺仁(三加茂中)	近藤幸(井川中)					
23	城尾春菜(池田幼)	小角聡志(加茂小)	平尾昌彦(辻小)	安藤久子(三縄小)	平岡千佳(政友小)				常村淳(西祖谷中)	山口義明(東祖谷中)			
24	元木真砂代(池田幼)	近藤博美(三庄小)	園尾淑子(芝生小)	神谷美樹(白地小)	岩崎真人(櫛生小)		片山徹(三好中)	小出真理子(三野中)					